

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401126		
法人名	株式会社マウントパード		
事業所名	グループホームわかばの家(1F)		
所在地	千葉市若葉区東寺山町399-1		
自己評価作成日	平成22年10月6日	評価結果市町村受理日	平成22年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・畑で家庭菜園をしており、季節の野菜の収穫を楽しみ調理している ・家庭菜園で季節の花等植え、四季を感じられる様にしている ・皆で協力し合って、できる事を手伝ってもらいながら生活している ・初詣、お花見、一泊旅行、餅つき等、季節を感じられる行事を行っている ・「その人らしく」をモットーに、その方がやりたい事、行きたい所等を最大限引き出し、支援するよう努めている ・毎日お風呂がある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム「わかばの家」は木をふんだんに使ったログハウス風の建物で、室内の廊下やリビングにはイスやソファが多く置かれ、いつでもどこでも寛げるよう配慮している。誕生日は本人の希望を取り入れてメニューを考え、時には揃って外食に行ったり、お酒を嗜む入居者には1週間に一度楽しんでもらうなど、一人ひとりの意向を尊重した支援を行っている。また普段の生活の中でも掃除、洗濯、調理など出来ることをやってもらい自立を支援している。理念である「その人らしく」「安らぎのある生活」「自立支援」を日々の暮らしの中で実践しているホームである。職員間の関係も良好で管理者や職員の思いや熱意が感じられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・その人らしく ・安らぎのある生活 ・自立支援を理念として掲げ、毎朝申し送りに復唱して、日々の介護に反映させている。	法人の理念の他に、ホーム設立時に全職員が話し合って決めた独自の理念がある。理念は朝の申し送り時に必ず唱和し、理念に沿ったケアの実践に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みつわ台地区の運動会やお祭りに参加したり、散歩に行った際に近隣の方へ挨拶をし積極的に声掛けを行っている。	自治会への加入は難しい状況だが、回覧物等は回してもらっている。隣接している同法人の高齢者賃貸住宅は別の自治会に属しており、その地区のイベントには入居者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の人から高齢者の相談にも協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や日常の取り組みを報告し、意見を伺っている。又、サービスや評価への取組みに関する話し合いも家族会等を開き行っている。不参加のご家族にはわかば便りと一緒に報告書を同封している。	運営推進会議は入居者、家族、地域包括支援センター職員、ホーム職員などが参加し開催しているが、参加者が少ないのが現状である。行事案内のほか外部評価の報告が主な内容で、参加者から意見を引き出し運営やサービスに活かすまでにはなっていない。	参加者には運営推進会議の意義を改めて理解してもらうことが重要と思われる。そのうえで議題を事前に連絡するなど会議の工夫が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に包括支援センターの職員に参加して頂き、連携が図れるようにしている。 ・社会援護課とも常に相談する様にしている。	地域包括支援センターとは運営推進会議に参加してもらうなど協力関係を築いている。また、社会援護課とは電話で連絡を取り合っている。法人本部も市町村と連絡を取り合うことが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を順番で受けており、会議等で他のスタッフに報告することで防止に努めている。鍵をかけないケアを目標としているが、ご入居者の安全の為、止むを得ず玄関は施錠している。希望があればスタッフ同伴で外に出ている。	玄関については、ホーム前の道路が国道の抜け道で交通量も激しく、家族の強い希望で施錠しているが、庭に出るテラスの入り口は常に解錠され、そこから外に出て近くのコンビニに買い物に行く入居者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないようスタッフ一人一人に徹底しており、ミーティングでも確認している。又、社外研修に順番で参加している。		

【外部評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は理解しているが、現在ご家族自身で管理されている為、必要になれば支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、必ず施設の生活を見て頂いてから契約内容を説明し、お帰りになられてから再度確認したいただいた上で契約している。解約に際しても本人や家族の納得が得られるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置している。今までに意見や要望が寄せられたことはない。しかし、ご家族の来訪時には積極的に声掛けをしたり、家族会や運営推進会議の場で要望や意見等を聞く機会を設けそれを運営に反映させている。	家族会は、年2回運営推進会議に合わせ開催しているが、特に要望・意見は挙げられていない。家族の訪問の際も積極的に声かけし、意見・要望を聴きだすよう努めている。	意見や要望が言い易い雰囲気作りも必要と思われる。また、家族会で意見を出してもらう場合は職員が席を外し、家族同士の話し合いができるような配慮も必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案がある場合は文書や口頭で聞く機会を設け、運営者と相談の上実施している。	現場職員の意見、要望はリーダーが聴き取り、リーダー会議で幹部社員に伝えるなど対応に努めている。また、職員が直接幹部社員に手紙で意見を伝え、問題が解決されたこともあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心を奨励し、研修への参加も積極的に勧めている。待遇考慮も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人の力量を把握し、外部・内部の研修への参加を促している。又、ミーティングで研修の報告を行い、スタッフの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社が経営している他の施設の職員と一緒に勉強会や研修会を行っている。又、外部の研修に参加し、他施設の職員との交流を図っている。		

【外部評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接お会いし、不安や希望をよく聞き、記録し、スタッフ全員と情報を共有し合い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得されるまで何度でも会う機会を設け、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームと決める前に、ご家族や本人に必要な支援が出来る他のサービスも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶を飲みながら昔話や生活の知恵等を聞いたり、縫い物や料理等も教わりながらより良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や買物、旅行等、ご家族に協力していただけることはお願いし、ご本人と一緒に支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人やご家族との関係が途切れないよう、行き来できるようにしている。 ・月3回、夜の民謡も継続して頂いている。	入居者の旧友の来訪は快く受け入れている。また、外泊や外食、年賀状を出すなど家族との関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見ながらリビングでの席の配置を考え、入居者同士の人間関係がうまくいくよう調整している。		

【外部評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣の施設に転居されたご入居者に会いにいたり声掛けをしている。また、ご家族が来訪した際も当ホームに来て頂いてその後の経過やお話を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の希望や訴え等、フロア会議や申し送りの中で話し合い、スタッフ全員で共有している。場合によってはご家族にも相談し協力を得ている。	希望や意向は、普段の会話の中から引き出したり、一対一になったときに聞きとるようにしている。入居者の希望は、内容によっては家族の意見も参考にしながら叶えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者に生活歴を聞き、日々の生活の中でもご本人から情報を得て、できるだけ自宅に居た時のように過ごして頂けるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは必ず日報、申し送りノート等に目を通し、一人一人の状況を把握してからケアに入るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のフロア会議でスタッフ全員で話し合っってプランを検討、作成し、ご家族に確認していただき、追加項目があれば付け足している。	6か月ごとに介護計画を見直し、変化があれば随時変更している。家族や医師、看護師からは訪問時に意見を聞き、毎月スタッフ全員で行われる会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録を毎日日勤者と夜勤者が記録して情報を共有し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や移送等、ホームで出来る範囲で行っている。		

【外部評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域担当の交番や消防署と連携をとり、離設時や火災等に備えている。 また、近隣のお店等にも挨拶に行き、緊急時の連絡や救助等の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関はご本人やご家族の希望優先し選んでもらっている。また、受診結果については受診報告書を作成し共有を図っている。	希望する医療機関への受診を支援している。通院介助は家族が行い、都合が合わないときは職員が付き添い、結果は電話で連絡している。協力医療機関の診察と訪問看護は毎週交互に行われ、緊急時は24時間対応になっている。月1回の訪問歯科もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・月2回訪問看護をお願いしている。 ・提携病院とも常に連絡を取れる体制にあり、24時間対応で相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限り毎日お見舞いに行き、早期退院に向け病院側と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化については契約の段階でご家族に説明している。 ・終末期については、ホーム内で出来る範囲で行っていく方針。	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を入居時に説明し希望を聞いている。事業所として看取りの事例はないが、今後の為に法人全体でターミナルケアの研修を行う予定がある。	職員はこれから行われるターミナルケア研修等で知識や技量を身につけ、家族や医療との連携を図りながら、万全の体制で支援できるよう整えておくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の半数が救命講習を受講している。また、マニュアルやビデオを見たりして訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害発生時に備えて職員の緊急連絡網を活用して協力を得られるようにしている。 ・非常時に備え近隣事業所から協力を得られる様挨拶や利用をしている。	防災訓練は年2回、消防署立会いのもと、隣接している同法人みつわの郷と合同で行っている。マニュアルや緊急連絡網も整備されている。近隣に落雷があったため、近いうちに自然災害対策でシミュレーションを行う予定である。	災害対策には地域との連携の強化が欠かせないので、運営推進会議の場で話し合う等の工夫が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・過ごされている部屋は個室でプライバシーが守られ、入室の際には必ずノックする事を徹底している。 ・トイレ・入浴は扉を閉めて介助している。 	入居者への言葉かけ等は、尊厳を大切にしながら対応している。失禁などの時も、周りに気付かれないよう配慮し誘導している。ホーム内で接遇マナーの研修を行い、挨拶や電話対応などが改善した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から訴えたりしない入居者へは、いくつかの選択肢の中からご自身で決めて頂いている。 ・ご本人の意思を引きだせる様努力している。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のペースに合わせた食事時間、昼寝等してもらっている。 ・ご入居者同士がコミュニケーションを取れるよう、食事・おやつ時間はくつろいで過ごしてもらっている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問美容が一ヶ月半に一度来てもらっており、長さ髪型等、希望通りをお願いしている ・ご本人の愛着のある衣服をもってきてもらい着用している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者のレベルに応じて、野菜の皮むきや刻み、盛り付け、配膳、片付け等をして頂いている。	普段の食材と献立は外部の業者に委託しているが、誕生日には希望を聞き、買い出しと調理を職員と一緒にやっている。また、おせち料理は毎年職員と一緒に作っている。入居者と職員は会話をしながら食事を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士がバランスの良いメニューを作っており、その指示通りに食事を作っている。 水分量は毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後行っている ・週に一度訪問歯科をお願いしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・リハビリパンツをやめ、布パンツをはいていただいている。 ・失禁のない様、排泄のリズムをつかみ誘導している。	入居者それぞれの排泄リズムをしっかりとつかみ、トイレ誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツに改善した例もあり、現在は全員が布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき便秘の日数を把握し合わせてお腹をさすったり牛乳を飲んで頂いたり、薬剤投与を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・日中はいつでも入浴できる様にお湯をはっている ・入浴剤をいれ、温泉気分を味わってもらっている。	入浴の時間帯は基本的には毎日午前10時半から12時であるが、希望があれば何時でも入浴可能である。異性介助は入居者と信頼関係ができてから対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に一人一人の生活習慣や体調に気をつけ、希望に応じて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の服用される薬の名前・形状・効能を一覧表にして確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週に一度、夕食時に「晩酌の日」としてビールか日本酒を飲んで頂いている。また、お茶、コーヒー、ジュース等自由に飲めるようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・希望があれば対応している ・買物や外食もご入居者の希望を聞いて月に1～2回ほど出かけている。	天気の良い日は、できるだけ散歩に出るようにしている。車イスでもテラスから中庭に出て散歩ができ、外気に触れる事ができる。散歩がてら買い物したり、職員とリクエストメニューの食材を買い出しに行くなど個別の外出支援にも努めている。また、家族も参加しての毎年恒例の1泊旅行が入居者の楽しみになっている。	

【外部評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理の出来るご入居者にはお財布を持ってもらい自己管理してもらっている。買物の際や自販機でも自由に支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、ご入居者から要望があれば自由に電話や手紙をしてもらえる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・電気や証明も暖かみのある色を使用し、室温も季節を感じられる様調節している。 ・居室の入り口に表札をつけてわかりやすくしている。	共用空間は広く清潔感があり、柱や壁など木が多く使われ自然のぬくもりを感じる。リビングや廊下などには腰をかけられるところが多く、入居者にやさしい作りになっている。壁の飾りからは季節が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、イスを所々に配置し、思い思いに過ごしたり、ご入居者同士のコミュニケーションを図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切にしていた物を自由に持ち込んで頂き安心して生活出来るようにしている。	大きなクロゼットと出窓がある作りで、家具やテレビなど使い慣れたものが持ち込まれている。家族の写真や思い思いの品を飾り、それぞれが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な所には手すりをつけたり、包丁や針等は見守りの元、その方の能力に応じ安心して使用できる様支援している。		

【外部評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所